

第5回 木曽岬町図書館活性化委員会 議事録

日時/場所	2016年6月28日（火）19:00～21:15 木曽岬町役場福祉教育センター2階 第3協議会室	
参加者	木曽岬町 事務局：山北教育長、西川教育課長、宮前係長兼指導主事 活性化委員：安田委員長、小森副委員長、中川委員、大橋委員、 武石委員、松下委員、加藤委員、柴田委員、星野委員、諸戸委員 アドバイザー：株式会社リブネット 永野、高橋	
議事・議題	回答	
1. 事務局担当者の変更、副委員長の変更について	<ul style="list-style-type: none"> 異動に伴い、事務局担当者が変更になった。（事務局） 同様に副委員長も異動となつた。教育現場等で経験豊富である小学校の校長である小森校長に副委員長をお願いしたいと考えている。（事務局） 	
2. 図書館名について	<ul style="list-style-type: none"> 町民にわかりやすく、図書館に馴染みを持ってもらうため、「木曽岬町立図書館」という名称にする。（事務局） トマッピーを募集した時のように愛称は募集する方が良い。知人などと話す中で、すでに名称案が様々なに出ている。外部からもわかりやすい名称が良い。（委員） 	
3. 私のおすすめするこの1冊について	<ul style="list-style-type: none"> 開館時の記念イベントとして、私のおすすめするこの1冊として、町民のおすすめ本の冊子を作り、展示を行うことを企画している。現在、広報で書評を集めている。（事務局） 製本や選定の仕方はどうするのか。リストに本の表紙画像も掲載するのか。おすすめする本が重複する場合はどうするのか。（委員） 中学校では、班内で選定を行っている。 普段評価されない子の自信につながるよう、上手な生徒のみでなく表現豊かなたくさんの作品を選んでほしい。（委員） ・ 様々に出た意見で事務局に再検討してもらいたい。（委員長） 	
3. 設計について、展示について	<ul style="list-style-type: none"> 前回の話し合いを基に設計を5か所変更している。 <ul style="list-style-type: none"> ①子ども用トイレの設置 ②展示スペースの壁の材質変更 ③展示スペースに倉庫の設置 ④多目的ルームの設置 ⑤カウンター内のスペース変更 （事務局） ④の多目的ルームは対面朗読室としても利用できる。 4月から施行された「障害者差別解消法」にも対応できるようにした。 書庫の形がいびつなように思うがどうか。（委員長） 柱の角はどうなっているのか？（委員） 自動貸出機についてはどうなったのか？（委員） 展示が3週間で変わるというスパンは短いのではないか？ソーターを入れるにもかなりの労力が必要になるのではないか？（委員） フリースペースとして利用できるということか。（委員長） 	
	<ul style="list-style-type: none"> 表に出る部分を優先した。しかし、スペースは狭くはない。（事務局） 確認するが、この場の協議で変更するのは難しいレベルの話。（事務局） 自動貸出機の導入は考えていない。（事務局） 端末を2台設置できるので、自動貸出機ではなく、セルフ貸出という形で利用することはできる。（アドバイザー） あくまでも3週間というのは目安、団体などにもお願いすることも考えている。団体にお願いする場合は基本、設置と撤去はまかせる。 足を運んでもらうための、仕掛けづくりとして、企画スペースとして使用することや、展示や企画と本をコラボレーションすることも考える。 そのとおり。（事務局） 	

<p>4. 開館時分類別所蔵目標冊数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般書 6.5：児童書 3.5 の割合で目標が決まった。 しかし、あくまでもアウトライン。開館時の企画となつた「おすすめ本」や開館までの社会情勢で変わってくる。(アドバイザー) ・開館後の資料購入内容によっても変わる。(委員長) ・紙芝居も大型のものを購入するのか。(委員) ・北部公民館の棚はどうなるのか。(委員) ・選書はすべてアドバイザーが行うのか。(委員) ・参加者はどうするのか。 ・学校だと書店が持ってきてくれるが、それは利用しないのか。(委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型紙芝居、舞台の購入も考えている。高齢者向けの紙芝居の購入も検討している。(アドバイザー) ・北部公民館の棚は壁面のみ残す予定。(事務局) ・その他の棚については、新図書館での利用や（開架・閉架）、学校で利用など、様々な方法が考えられる。(アドバイザー) ・企画として「選書ツアーソー」を開催することも検討している。 ・企画として行うので、広く町民を集めることも検討している。 ・書店が本の見本を持ってくる図書は、書店の在庫処分の可能性もある。(アドバイザー)
<p>5. サポーター業務について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回話合った通り、個人情報に関わることはサポーターの業務としない。青少年育成町民会議の学校支援地域本部に頼むことも検討している。今後、具体的な人数をあげた実情に沿った動きが必要。委員の皆さんならどのサポーターになっていただけるか考えてほしい。(事務局) ・いくつかまとめてもいい内容もあるのではないか。(委員) ・配架や修理はある程度、毎日必要なサポート。 ・開館後に必要になったサポートにもまわせるように、余力を残し、できるところから進めることができること。(委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階を踏めるように分けたが今後検討する。(事務局)
<p>6. 開館前のワークショップ開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは新図書館の広報であり、サポーターの醸成にもつながる。当社が主体になって行うが、委員の皆さんにも、実施できるようになってほしい。委員の皆さんのがサポーターとなってほしい。 ・皆さんができることの運営をサポートする。 ・全部当社の実施だと、参加者で実施者としてのイメージがつかめない。まずは8月開催を検討している。 ・何かいい案があれば出してほしい。(アドバイザー) ・8月実施のワークショップは当社が進めるので、委員の皆さんも参加できる方は参加してほしい。(アドバイザー) ・内容を決定したら、委員にも情報を共有するので、参加できる方はお願いしたい。(事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みなので、親子で参加できるものがいい。(委員) ・承知した。(委員)
<p>7. 備品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書架や椅子などとは別に、壁面の飾りなどの案を考えてほしい。(事務局) ・お話し会などの時の暗幕がほしい。 ・雑誌のスポンサー制度も考えたい。そのために、購入する雑誌も決めて行きたい。(事務局) ・雑誌のスポンサー制度は広まっているのか。スポンサーで資料費が浮いた分、次年度の資料購入予算が減額されることもある。(委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飽きが来ない多様性のあるものがいい。雑誌架などもどうするか検討が必要。(アドバイザー) ・暗幕は必要になると思う。(アドバイザー) ・雑誌の決定は時期尚早。金額で提示するとよい。(アドバイザー) ・スポンサーが降りた時のことまでは、考えられていないのが実情。(アドバイザー) ・財政状況が厳しいので、予算が削られることは考えられる。(事務局) ・雑誌の寄付ではなく、金額にすると、金額に見合ったもので購入できる。

■次回活性化委員会開催日程について 10月中旬ごろ